

最終評価シート(案)

最終評価(表紙)

恵那市歴史的風致維持向上計画(平成23年2月23日認定) 最終評価(平成22年度～令和元年度)

■ 統括シート(様式1)	2
■ 方針別シート(様式2)	
I 歴史資源の魅力の向上及び活用促進	3
II 町並みの整備、保全	4
III 歴史的風致に対する市民意識の向上	5
IV 歴史的風致を維持する伝統文化の担い手の育成	6
■ 波及効果別シート(様式3)	
i 城下町岩村地区の来訪者の増加	7
ii まちなみ保存会による活動の促進	8
iii 住民主導のまちづくりからの地域活性化	9
■ 代表的な事業の質シート(様式4)	
A 岩村城下町まちなみ保存事業	10
B 岩村城登城道整備事業	11
■ 歴史的風致別シート(様式5)	
1 城下町岩村に見る歴史的風致	12
2 中山道大井宿村に見る歴史的風致	13
3 中馬街道・明知に見る歴史的風致	14
4 寒天製造に見る歴史的風致	15
5 祭礼の奉納行事に見る歴史的風致	16
■ 庁内体制シート(様式6)	17
■ 住民評価・協議会意見シート(様式7)	18
■ 全体の課題・対応シート(様式8)	19

市町村名	恵那市	評価対象年度	H22～R1年
① 歴史的風致			
	歴史的風致	対応する方針	
1	城下町岩村に見る歴史的風致	I, II	
2	中山道大井宿村に見る歴史的風致	II, III	
3	中馬街道・明知に見る歴史的風致	I	
4	寒天製造に見る歴史的風致	I, IV	
5	祭礼の奉納行事に見る歴史的風致	IV	
② 歴史的風致の維持向上に関する方針			
	方針		
I	歴史資源の魅力の向上及び活用促進		
II	町並みの整備、保全		
III	歴史的風致に対する市民意識の向上		
IV	歴史的風致を維持する伝統文化の担い手の育成		
③ 歴史まちづくりの波及効果			
	効果		
i	城下町岩村地区の来訪者の増加		
ii	まちなみ保存会による活動の促進		
iii	住民主導のまちづくりからの地域活性化		
④ 代表的な事業			
	取り組み	事業の種別	
A	岩村城下まちなみ保存事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	
B	岩村城登城道整備事業	歴史的風致維持向上施設の整備・管理	

市町村名	恵那市	評価対象年度	H22～R1年
方針	I 歴史資源の魅力の向上及び活用促進	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】多くの地域で十分な歴史的資源の調査が実施されず、活用ができていない。また恵那市が所有する歴史資源において、限られた財源の中、適切な管理が十分されず老朽化が著しい箇所が見られる。

【方針】地域の歴史資源に対する現地調査や史料文献調査、埋蔵文化財に対する発掘調査を実施した上で、必要に応じて復原や修理、修景を施す。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	岩村藩鉄砲鍛冶屋加納家取得・修理事業	復原し一般公開	あり	H22～25
2	木村邸整備事業	復原し一般公開	あり	H23～26
3	岩村城石垣修理事業	支障木の伐採	あり	H23～
4	岩村城跡蘭丸管理棟修理事業	トイレ、説明スペースの整備	あり	H22～23
5	岩村城・岩村城下町・美濃国遠山荘総合調査事業	経塚、石造物、信仰の対象となる施設など52基の調査	あり	H20～24

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【岩村藩鉄砲鍛冶屋加納家取得・修理事業】

江戸時代から三代続いた鉄砲鍛冶である加納家宅を取得し、古写真を元に復原し、一般公開を行った。歴史的建造物の保存・活用をなし、景観の向上が図られた。

【木村邸整備事業】

江戸時代に間屋を営んだ木村邸では、建築当時の痕跡の調査を行い、当時の町屋様式を復原し、一般公開を行った。歴史的建造物の保存・活用をなし、景観の向上が図られた。

【岩村城石垣修理事業】

支障となる樹木を計画的に伐採したことにより、景観が向上した。また地域ボランティアによる石垣清掃作業も行われ、地域住民の岩村城跡に対する意識の向上をなした。

【岩村城・岩村城下町・美濃国遠山荘総合調査事業】

岩村初代藩主の墓地など岩村城下町と周辺の経塚、石造物の調査を行い、地域住民に歴史文化の周知が図られた。



岩村藩鉄砲鍛冶加納家の修理

④ 自己評価

歴史的建造物の修理公開により、建造物の保存・活用がなされたが、まちの活性化に向け多様な活用手法の検討が必要である。岩村城跡では、支障となる樹木を計画的に伐採し、景観の向上が図られた。一方、岩村城跡の石垣が浮いたり、孕んでいる箇所もあることから保存修理に向け精度を上げた調査が必要である。

⑤ 今後の対応

町屋等で歴史的に価値のある建造物については、官民の連携も含め、様々な手法を検討し、修景・修理・保存を進め、活用を図る。また岩村城跡の石垣については、石垣の悉皆調査は既に行っているが、さらに精度を高め、崩落の危険のある箇所の把握や石垣修理箇所の優先順位などを設定し、計画的に修理を進める。

市町村名	恵那市	評価対象年度	H22～R1年
方針	Ⅱ 町並みの整備、保全	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】 社会経済の進展に伴い、歩行者中心であった古い町並みが自動車中心の町並み形態へと変わりつつある。また、沿道に建つ建造物も生活の利便性から新建材を用いた住宅へと変わりつつある。公共空間においても、電線、電柱、標識及び道路舗装などが歴史的な趣を阻害している。

【方針】 歴史的な文脈を踏まえた歴史資源の修理・修景を進める。歴史的な風致を活かしたまちづくりを進めるため、電線類の地中化、道路美装化、広告物の規制など景観的な配慮を行うとともに、休憩などの空間の整備を行う。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	岩村城下町まちなみ保存事業	159件の修理・修景補助	あり	H10～31
2	岩村駅前広場整備事業	岩村駅前広場、トイレの整備	あり	H23～24
3	電線類地中化とまちなか道路修景事業(城下町岩村地区)	電線類地中化L=1,230m 道路美装L=1,675mの整備	あり	H21～24
4	道路美装事業(宿場町大井地区)	ロード舗装による道路美装 660mの整備	あり	H29～30
5	ポケットパーク整備事業(宿場町大井地区)	ポケットパーク1箇所(上宿広場) の整備	あり	H25～27

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【岩村城下町まちなみ保存事業】

岩村城下町の町家では、古写真や痕跡調査によりH10からH30までに修理107軒、町並みに調和した修景41軒、指定文化財等の修理11軒を実施したことにより、歴史的な風致の向上をなした。

【岩村駅前広場整備事業】

岩村駅の駅舎を城下町を意識した格子形状の外壁にするなど、歴史まちなみ景観に調和した整備が行えた。

【電線類地中化とまちなか道路修景事業】

岩村町本通りにおいて、電線類地中化など事業を実施したことにより歴史的な趣の調和や町並みの美観が図られた。

【ポケットパーク整備事業】

中山道沿線にポケットパークを整備することにより、中山道の来訪者の利便性の向上に寄与した。



まちなみ保存が行われた城下町

④ 自己評価

岩村城下町まちなみ保存事業により、歴史的建造物の保存及び町並みの維持が図られた。電線類地中化と道路修景事業により、町並みの魅力が増した。一方、少子高齢化などにより空き家や町並みに合わない建造物もあり、町並みの連坦性が失われている。

⑤ 今後の対応

岩村城下町まちなみ保存事業では、引き続き所有者に助言、指導、財政的支援を行うことにより重要伝統的建造物群保存地区のまちなみ保存を図り、来訪者がより歴史を感じられる町並み形成に努める。宿場町大井地区のポケットパーク整備事業では、地域住民と来訪者が交流することができるポケットパークの整備を進める。また道路美装事業では、重点地区内において来訪者の回遊性の向上を図るため、道路美装を進める。

市町村名	恵那市	評価対象年度	H22～R1年
方針	Ⅲ 歴史的風致に対する市民意識の向上	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】 市内には旧街道沿いを中心に旅籠跡や豪商の家屋、道標や石碑など歴史資源が多数あるにも関わらず、市民の多くは、そうした事実に対する認識が薄く、地域にある歴史資源に触れ親しむ機会が少ない。

【方針】 市内に点在する文化財等の地域資源を生涯学習として学ぶ機会を創出し、文化財保護の普及、啓発に努める。地域活動組織やNPO等により、行政と協働による歴史的風致を活かしたまちづくりを進める。またまちなかに点在する歴史資源の紹介を行うためのサインの充実など、市民や来訪者に対して歴史的風致の魅力を情報発信する。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	案内板設置事業	岩村城下町の案内板など18基 中山道を示す石柱など12基	あり	H22～28
2	中山道保存修景整備事業	4団体に活動補助	あり	H22～R1
3	文化財の普及・啓発	市指定文化財にて小学生等を対象にお茶会12回／年、岩村城清掃2回／年など継続開催	あり	H22～
4	文化財の防災	重要伝統的建造物群保存地区において火災予防パレードに約100人、子ども夜回り約40人の参加により年1回、継続的に実施	あり	H22～

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【案内板設置事業】

岩村城跡に向かう登城道への案内看板や中山道を示す標柱の設置により、市民・来訪者の回遊性の向上に寄与した。

【中山道保存修景事業】

中山道沿線の草刈り、トイレの清掃など維持管理に対し助成を行い、中山道沿線の環境が良好に保たれた。

【文化財の普及・啓発】

岩村城跡清掃活動に対し、助成を行うとともに歴史的建造物において伝統芸能の体験やお茶会を開催し、歴史文化に対する意識の向上に努めた。

【文化財の防災】

重要伝統的建造物保存地区において、地元の少年消防隊、自治会、消防団などにより火災予防パレードや文化財などで火災訓練を行い、歴史的風致の意識の向上に努めた。



設置した案内看板と標柱



岩村城跡清掃活動の様子

④ 自己評価

案内看板の設置により、文化財の周知・啓発事業が継続的に行われ、地域住民の歴史文化に対する意識の高揚が図られ、併せて来訪者の回遊性が向上した。一方、整備方針から外れた案内看板では、老朽化も進み対応が課題となっている。

⑤ 今後の対応

本市固有の歴史文化をさらに発信するとともに、市民・来訪者に対し施設案内看板の設置や老朽看板の更新を行い、情報発信を行い歴史文化に対する意識向上を推進する。

今後も歴史資源の維持管理に対する支援を継続的に実施し、良好な環境の維持及び向上を図る。

市町村名	恵那市	評価対象年度	H22～R1年
方針	IV 歴史的風致を維持する伝統文化の担い手の育成	今後の対応	継続展開

① 課題と方針の概要

【課題】 少子高齢化の進行や地域の行事などに無関心な住民も増え、受け継がれてきた伝統行事においてもこれまで通りの運営を続けることが困難な状況となっている。

【方針】 伝統芸能などの担手育成のため、地域に残る歴史や文化を誰もが気軽に学び、触れることができる機会を創出する。また、伝統芸能の場に積極的に小中学生などを参加させるとともに、市内の歴史的風致を継承する団体に対し支援を行う。

② 事業・取り組みの進捗

	項目	推移	計画への位置付け	年度
1	祭礼復興事業(武並宮御祭礼規定に基づく祭礼)	岩村町秋祭行事の祭礼衣装等の整備	あり	H22～R1
2	歴史まちづくり推進事業	大井宿ワークショップを6回開催、延126名が参加	あり	H24～27
3	ふるさと文化普及継承事業	地区の小中学生に対し総合学習を年間通じ開催	あり	H24～R1

③ 課題解決・方針達成の経緯と成果

【祭礼復興事業】

岩村町秋祭行事にて行われる神輿渡御行列において、使用される祭具や楽器の修理、購入を支援することにより、伝統文化を支える人々に意欲の向上が図られ、地域で長年受け継がれている伝統行事の継承に寄与した。

【歴史まちづくり推進事業】

事業の推進にあたり、ワークショップを開催するなど地域住民の意見を取り入れながら、事業を実施することができ地域住民の歴史文化に対する意識の向上が図られた。

【ふるさと文化普及継承事業】

地域の小学生を対象に、年間を通じた総合学習において地域の伝統芸能の体験学習を行うとともに、歴史的建造物を活用した伝統文化の体験学習を実施することにより、歴史文化に対する意識の向上が図られた。



岩村秋祭行事 神輿渡御行列の様子



大井町芸能フェスタ:大井文楽

④ 自己評価

地域で長年受け継がれている伝統行事を支援することで、次世代に伝統行事を引き継ぐことができ、住民の伝統行事に対する意識の向上が図られた。

地域の小学生を対象に伝統芸能の体験学習を行うことにより、伝統芸能に触れる機会の創出に繋がった。

⑤ 今後の対応

岩村秋祭行事を後世に引継ぎ、祭礼が継続するよう祭礼衣装等の整備を継続する。

歴史的な町並みやまちづくりの拠点となる施設を整備し、継続して地域住民とともにまちの活性化に繋がる事業の立案、実施を進める。また、今後も継続して歴史文化を体験できる機会を創出することにより、後継者の育成を図る。

市町村名	恵那市	評価対象年度	H22～R1年
効果	i 城下町岩村地区の来訪者の増加		

① 効果の概要

歴史的風致の充実による城下町岩村地区への来訪者の増加

② 関連する取り組み・計画

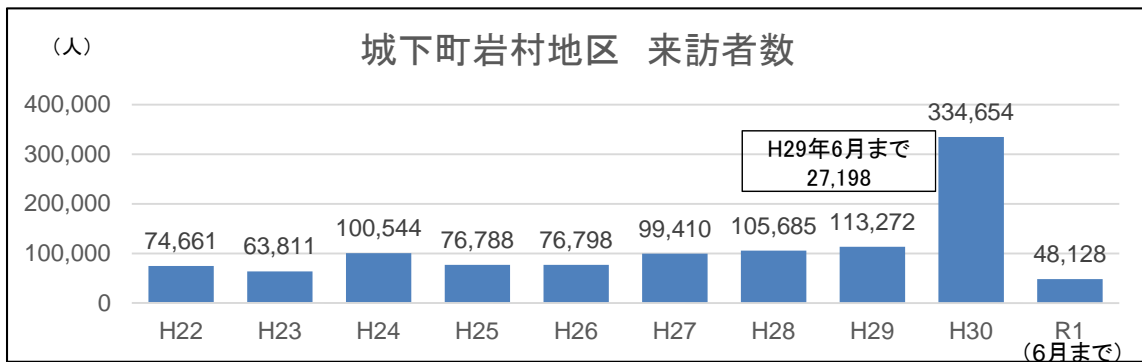
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	第2次恵那市総合計画	あり	H28～R7
2	都市再生整備計画	あり	H20～24
3			

重点地域であり重要伝統的建造物群保存地区である城下町岩村地区への来訪者数は、地域団体によるイベントや体験型の観光の充実や岩村城下町まちなみ保存事業、電線類の地中化とまちなか道路修景事業、案内板設置事業などにより歴史的風致の向上や来訪者の回遊性の向上を図った。

③ 効果発現の経緯と成果

重点地域である城下町岩村地区では、地域住民が主体となり作成した地域まちづくり計画により、地域団体が、城下町岩村地区を中心に城下町の地域遺産を巡るツアーや歴史学習会などの体験型プログラムの提供やイベントの開催により、地域の活性化を図った。

また、NHK連続テレビ小説の撮影現場となったことから、城下町岩村地区への来訪者は、平成30年に急激に増加した。平成31年に入り、来訪者数は減少したものの放送前の平成29年の同月までの集計と比較すると1.7倍の来訪者数があった。



④ 自己評価

地域住民が主体となり結成した団体・個人により、作成された地域まちづくり計画に基づき、いわむら五つこ体験プログラム実行委員会が設置された。これにより重点地区である城下町岩村地区の魅力発信と、新たな観光資源の掘り起こしが図られたことや、岩村城登城道の清掃や整備工事により美観が整いつつあることなどで、城下町岩村地区への来訪者が増加した。

⑤ 今後の対応

引き続き地域団体が実施するイベントや体験プログラム等に積極的に支援することにより、岩村の歴史や観光面の魅力を高め、歴史的風致の向上を市民だけでなく市外にも発信する。また、市民とともに岩村城跡の草刈りや環境整備を行い、美観の維持向上を図る。

市町村名	恵那市	評価対象年度	H22～R1年
効果	ii まちなみ保存会による活動の促進		

① 効果の概要

まちなみ保存会の設立

② 関連する取り組み・計画

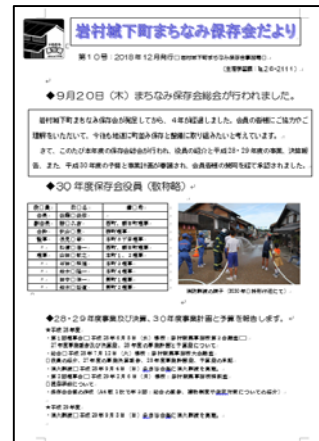
	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	恵那市岩村町本通り伝統的建造物群保存地区保存計画	なし	H17～

重要伝統的建造物群保存地区内において、岩村城下町まちなみ保存会が平成26年4月に保存地区内の自治会により発足し、町並み景観の保存に取り組んでいる。

③ 効果発現の経緯と成果

岩村城下町まちなみ保存会では、これまで年1回から4回の会報を作成し、補助制度の説明や、修理事例を紹介し地区内回覧を行った。これにより、地区内の住民も家屋の修理方法などの認識が増し、平成10年度から平成30年度までに148件が修理・修景を行った。また、会員役員等10名程度で年1回の視察研修を開催し、町並み景観保存の意識高揚が図られた。また、区域内の空き家の情報を共有すると共に解消に向けた相談を随時開催し、市とともに空家対策を講じるなど、空き家の活用に努めた。

岩村城下町まちなみ保存会を構成する自治会においては、それぞれの自治会において、消火訓練を年1回実施した。また、保存会員と地域の子ども約50人により1月の文化財防火デーにあわせて保存地区の夜回りを行うなど、防災意識の向上を図り、町並み景観の保全に努めた。



活動を知らせる広報誌

④ 自己評価

岩村のまちなみ保存は、選定当初から行政主導で進められてきたが、岩村城下町まちなみ保存会ができたことで、住民たちのまちなみ保存に関わる意識が芽生えた。



子ども夜回りの実施状況

⑤ 今後の対応

空き家問題は、重要伝統的建造物群保存地区内においても高齢化率の増加等により懸念される。空き家を外部の若い世代による商業などの場として活用するなど、広い視野で住民と意思疎通を図りながら進める。

市町村名	恵那市	評価対象年度	H22～R1年
効果	iii 住民主導のまちづくりからの地域活性化		

① 効果の概要

住民が主体となった歴史資源を活かした活動が行われた

② 関連する取り組み・計画

	他の計画・制度	連携の位置づけ	年度
1	第2次恵那市総合計画	あり	H28～R7

重点地区である城下町岩村地区において、地区内の団体や個人による「いわむら体験プログラム実行委員会」が平成28年に設立され、歴史的資源を活用した体験プログラムの提供が行われた。また中山道宿場町大井地区においては、歴史資源を活用する運営団体が地域により設立された。

③ 効果発現の経緯と成果

重点地区である城下町岩村地区において、まちづくり活動を行う団体や個人による「いわむら体験プログラム実行委員会」を平成28年7月に設立した。「いわむら体験プログラム実行委員会」は城下町岩村地区において、城下町めぐりや体験プログラム「いわむら五っこ」の広報や企画立案を行い、構成員である団体や個人が主催している。この城下町めぐりや体験プログラムには、平成28年度が301人、平成29年度が874人、平成30年度で746人が体験した。

宿場町大井地区では、市民有志が「中山道大井塾」を平成23年10月に設立し、明治天皇大井行在所において、まちづくり活動が行われた。このほか中山道のガイドを行う中山道かたりべの会の会員の指導により、子どもかたりべが育成された。また中山道沿線の軒先を活用したのれんコンテストを行う実行委員会など、地域の活動が中山道において行われた。平成30年12月には、中山道大井宿の歴史・文化資源を活用し、明治天皇大井行在所の保存・活用を図るための組織として「しぶろく大井宿」が設立された。



いわむら五っこの活動を伝える広報誌



子どもかたりべ開催の様子

④ 自己評価

まちづくり団体が設置され、まちづくり活動の強化が図られ、町並みを活用したまちづくり活動が活発化した。

⑤ 今後の対応

まちづくり活動をさらに展開させるため、まちづくり団体と連携を深めるとともに活動拠点施設の整備を進める。

市町村名	恵那市	評価対象年度	H26～H28年
取り組み	A 岩村城下町まちなみ保存事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>平成10年度から伝統的建造物群保存地区内の修理修景に対する助成事業を行っており、20年間で148件の助成実績がある。</p> <p>また同保存地区では、20年以上前から空き家であった元染物工場を活用し、地域の有志で立ち上げたまちづくり会社が改修を行い、平成28年4月にゲストハウスとしてオープンさせた。利用者数は、平成28年825人、平成29年1,351人、平成30年1,426人と年々増加している。</p>			
			
整備前		整備後(ゲストハウスとして活用)	
<p>② 自己評価</p> <p>観光入込数が概ね増加傾向にあることから、この事業によって「古い町並み」としての景観が整備され、その効果が発揮されつつあることが顕著である。</p> <p>ゲストハウスについては、補助金を活用しながら、実施主体は地域住民によるまちづくり会社を設立し、地域の人々が自らの力でまちの活性化に取り組む事例となっている。地域の人々が感じる地元への愛着や歴史に対する意識のより一層の向上が期待される。</p>			
外部有識者名	堀田典裕(名古屋大学大学院工学研究科助教)		
外部評価実施日	平成29年2月22日		
<p>③ 有識者コメント</p> <p>重要伝統的建造物群保存地区では、近世を基調としながらも、近現代の暮らしの痕跡を取り入れた修景が見て取れ、近世以来の伝統的まちなみが、持続可能な「古いまちなみ」として捉えられている点において、大いに評価される。保存対象地区の染物工場が、地元有志によってゲストハウスとして改修された際、格子等による安易な近世まちなみへの復旧や復原ではなく、木製建具のガラス窓が再整備され、既存のタバコ・ショーケースが積極的に保存された。このように、統一された木製建具のガラス窓と、近代商店の軒先に設けられたショーケースは、岩村城下町まちなみ地区の特徴的なデザイン要素であり、これまでも「ひなまつり」などに大いに活用されて来た。今後も、単なる復旧や復原に止まらない持続可能な「古いまちなみ」を目指すべく、ハードとソフト両面の整備が期待される。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>所有者に助言・指導・財政的支援を行うことにより、重要伝統的建造物群保存地区のまちなみ保存を推進し、歴史的風致の維持及び向上を図る。</p>			

市町村名	恵那市	評価対象年度	H26～H28年
取り組み	B岩村城登城道整備事業	種別	歴史的風致維持向上施設
<p>① 取り組み概要</p> <p>平成26年度には、県の主要観光資源誘客強化事業を活用し、岩村藩主邸跡前から岩村城址公園までの登城路(116.3m)の修景工事(側溝工、舗装版破碎工、舗装工<脱色カラー>、樹脂舗装工)を施工した。</p> <p>平成28年度には県の同補助により、出丸広場入口に至る部分の未舗装部分を舗装及び出丸広場にあるトイレに浄化槽を設置、登城道に案内看板(全29基)を設置した。</p> <p>また地元団体や学生、住民のボランティアによる年2回の登城道周辺の草刈や清掃作業に対して助成を行っている。</p>			
			
H26年度 登城路修景工事 施行前		施行後	
<p>② 自己評価</p> <p>地元の人々の草刈や清掃作業への参加は、地域の歴史や伝統を再認識することになり、地域に対する愛着と誇りを形成することに結びつくと考えられる。毎年春と夏の2回開催し、参加者数は延200人以上が参加するなど、意識の高さが伺える。</p> <p>来訪者数の推移を見ると年度により増減はあるものの、平成23年と平成30年度を比較すると31,000人増加の64,065人となっていることから、清掃や整備工事により美観が整いつつあることで、岩村城跡を訪問する人の数に影響があると考えられる。</p>			
外部有識者名		堀田典裕(名古屋大学大学院工学研究科助教)	
外部評価実施日		平成29年2月22日	
<p>③ 有識者コメント</p> <p>ボランティアによる清掃活動や整備活動によって、登城道路の一部が整備され、歩車ともに登城道路へのアクセスがし易くなった。視察最中に登城道路入口に自動車が迷い込み、立ち往生する光景に出会したが、登城口の適当な場所に自動車の乗り入れを制限する柵等を設ける必要がある。また、今後も観光客は一層増加することが予測され、歩車の交通計画を整備し、明示する必要がある。この意味において、町づくり団体「城下町ホットいわむら」によって設けられた歩行者案内看板は、現地で在りし日の岩村城をCG再現できるQRコードを記載しており、『毎日新聞』(平成28年9月7日付)に取り上げられたことからわかるように、先進的取り組みとして大いに評価できる。さらに、こうした登城道路の整備と並んで、登城後の眺望を確保するための周辺樹木の伐採が望まれる。</p>			
<p>④ 今後の対応</p> <p>岩村城跡の整備については、平成30年に完成した保存整備基本構想に基づいて、史跡の価値を守りながら、より多くの観光客に足を運んでもらえる山城として道路、石垣、景観などの整備を行う。</p>			



H28年度 案内看板 設置

市町村名	恵那市	評価対象年度	H22～R1年
歴史的風致	1 城下町岩村に見る歴史的風致	状況の変化	向上
対応する方針	I 歴史資源の魅力向上及び活用促進 II 町並みの整備、保全		

① 歴史的風致の概要

城下町は、重要伝統的建造物群保存地区に指定され、その一部を構成する柳町は足軽長屋に代わり10軒棟続きの2階建ての長屋が建てられた。岩村町本町通り周辺では、近代の発展過程を伝える町家群と城下町の商家町地区と、岩村川周辺の武家屋敷地や岩村城跡、周囲の環境と一体となった歴史的風致を形成している。岩村秋祭行事は、この城下町において、寛永8年(1631)に武並神社に社殿を再建したのを機に始められた。神輿渡御行列の構成は、衣装、道具とも江戸時代から形を変えず継承されてきた。行列には、岩村町民など約300人が参加するなど、地域の住民により歴史、伝統の活動が受け継がれている。

② 維持向上の経緯と成果

重要伝統的建造物群保存地区である岩村町本通りにおいて、地域住民の歴史的景観を重視する流れにより平成10年度から平成30年度までに歴史的建造物の修理107軒、建造物の修景41軒が実施された。この流れに企業が呼応し、事業者が景観に配慮した店舗等の外観デザインを取り入れるなど、まちなみ保存会の取り組みが行われた。併せて、電線類地中化、まちなか道路の修景や街路灯が整備され、歴史的な趣の調和が図ることができた。

また重要伝統的建造物群保存地区から少し離れた旧武家町に位置する岩村藩鉄砲鍛冶加納家は、所有者から建物の寄附を受け、修理を行うとともに耐震補強工事を行い、公開することができた。

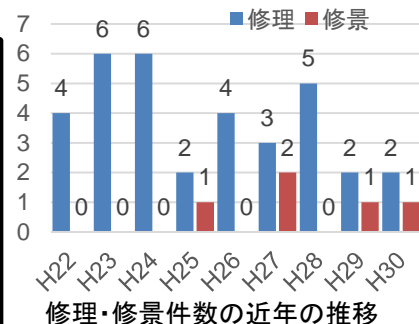
町並み景観が向上するなか、地域で長年受け継がれている岩村町秋祭行事や地域住民によるいわむら城下町のひなまつりが重要伝統的建造物群保存地区で行われ、地域住民の景観形成や歴史文化に対する意識の向上が図られた。



事業施工前



事業施工後の様子 H25.2



③ 自己評価

歴史的建造物の整備や電線類地中化とまちなか道路修景事業、岩村城下町まちなみ保存事業により、良好な町並みや歴史的風致の維持向上が図られた。また城下町において、秋祭行事やひな祭りなどイベントが開催され、まちに賑わいが創出された。一方、少子高齢化などにより空き家や空き地が増加は課題である。

④ 今後の対応

引き続き、岩村町まちなみ保存会と連携を図り、良好な町並み景観の創出に取り組むとともに、空き家の情報を共有するとともに解消に向けた相談を今後も開催し、空家対策を講じる。また併せて案内看板等の設置により、重点地区の回遊性の向上を図る。

市町村名	恵那市	評価対象年度	H22～R1年
歴史的風致	2 中山道大井宿村に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	Ⅱ 町並みの整備、保全 Ⅲ 歴史的風致に対する市民意識の向上		

① 歴史的風致の概要

中山道大井宿は、中山道46番目の宿場で、江戸から87里(348km)京へは47里(188km)のところにある。今でも、当時の面影を残す岩井家(明治天皇大井行在所)では、地域の有志が建物の修理を実施し、平成23年11月に歴史文化の伝承や地域の活動の拠点として活用された。

また、永禄7年(1564)に再建された武並神社は、江戸時代に大修理を受けたが、平成20年度からの解体修理により建立当初の姿に復原した。この武並神社の例大祭では、地域の氏子による神輿の渡御が大井宿を中心に行われており、地域住民に伝承している。

② 維持向上の経緯と成果

中山道大井宿では、昭和62年に石畳化事業が行われたが石畳の老朽化が進む中、全ての枡形が石畳化されておらず中山道を明確に示すものとなっていなかった。そのため道路美装事業により、宿場町内の舗装に白と黄色を散布したロード舗装を行ない、視認性、安全性が向上するとともに歴史的な町並みの向上をなした。

案内板設置事業では、設置時期により様々なデザインの案内看板があったため統一を図った。物語性を加え誘導案内にしたことにより、点在する文化財等を有機的に繋げ、来訪者の回遊性を高めた。

ポケットパーク整備事業では、中山道沿線で空き地となっていた土地を取得し、トイレやベンチ、案内看板を設置し来訪者や地域住民の利便性の向上や、景観や町並みに配慮した植栽をし、これらの事業により、歴史的風致の維持及び向上をなした。

明治天皇大井行在所整備事業では、平成23年に歴史文化の伝承、地域の活動拠点として、まちづくり団体が利用していた。管理運営は、地域主体の団体が行う予定だったが団体の設立に時間を要した。整備時期を先送りすることとしたが、地域団体により、中山道大井宿のれんアートコンテストが行われ、大井宿を内外に発信することができた。



H29.12



道路美装の様子

H30.3



整備したポケットパークの様子

③ 自己評価

街道の景観が良好になり、歴史的風致が向上し、中山道を歩く来訪者が増えた。

景観が良好になったことで、中山道沿線の歴史的建造物を活用する市民団体が発足し、まちの賑わいにつながりつつある。一方、管理運営を行う市民団体の発足の遅れにより、整備事業が遅れている明治天皇大井行在所を歴史文化の伝承、地域の交流施設として整備する必要がある。

④ 今後の対応

道路美装事業では、宿場町内において事業を実施したが中山道沿線において、連続性などを検討し、道路美装事業の延伸を検討する。

活発化する市民団体により、まちの賑わいが創出できるよう明治天皇大井行在所の改修やポケットパークなどの整備を行い、文化財の活用を図る。

市町村名	恵那市	評価対象年度	H22～R1年
歴史的風致	3 中馬街道・明知に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史資源の魅力向上及び活用促進		

① 歴史的風致の概要

中馬街道とは、特定の道の名称ではなく、信州と名古屋を結び中馬輸送が行われた街道の総称である。この中馬街道や南北街道が交わる明智は、宿場、物資の中継地として賑わった。明治に入ると製糸工場が相次いで建てられ、工業の発展によりさまざまな商人が集まるなど、一大商業地として発展した。町並みは、大正から昭和初期にピークを迎え、現存する主要な建物はこの時期に建築された。これらを生かして始まった「日本大正村」運動により、大正、昭和初期の町並みが歴史的風致を形成している。

八王子神社の例祭は、再建された寛永年間から始まったといわれている。大きな特徴は、明智太鼓と呼ばれる太鼓の打ち囃しがあり、神前で奉納されるばかりでなく、大正の面影の残る市街地に太鼓を積んだ山車が繰り出し、豪快に舞い踊り打ち鳴らしながら引き回す特有な姿で、地域住民により受け継がれている。

② 維持向上の経緯と成果

明智町の町並みは、大正から昭和初期までに建築された建物が多く残り、これらの建造物を活用し、観光客を呼び込むため昭和59年に旧明智町役場を「日本大正村役場」とし、日本大正村を立村した。昭和60年には日本大正村役場から大正路地までの約130mの石畳化、資料館、駐車場を設置した。また大正村役場として活用された旧明智町役場は、明治後期の本格的な洋風建築であり、今では資料館兼休憩所として活用されている。地域の歴史文化伝承に貢献していることから平成27年11月1日に景観重要建造物として指定し、建造物の適正な管理が図られた。

明知鉄道明智駅前広場に近接する大正広場を平成23年に整備し、大正村の来訪者の利便性の向上が図られた。

また八王子神社社殿拝殿保存修理補助事業では、延宝4年(1676)に造営され、当初の姿をとどめている社殿、拝殿を雨漏り被害から守るため、従来の銅版葺を参考に全面葺き替えし、歴史的建造物の保存が図られた。



景観重要建造物に指定された
日本大正村役場



大規模修理を行った八王子神社
拝殿

③ 自己評価

良好な歴史的景観を有する明智町の「日本大正村」では、地域住民の景観形成に対する意識が高く、「日本大正村役場」が景観重要建造物に指定され、建造物の適正な管理が図られ、まち並みの保全が図られた。

④ 今後の対応

明智町の「日本大正村運動」を今後も支援し、良好な景観形成を地域住民とともに取り組みを推進する。

市町村名	恵那市	評価対象年度	H22～R1年
歴史的風致	4 寒天製造に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	I 歴史資源の魅力向上及び活用促進 IV 歴史的風致を維持する伝統文化の担い手の育成		

① 歴史的風致の概要

恵那市の南西部に位置する山岡町は、細寒天を特産とする町である。大正10年（1921）、岐阜県は農家収入の増加を図るため、寒天製造条件の適否調査を行い、東濃地方等が極めて適地であるとした。寒天製造はこの報告を受けて岩村、山岡町で始まった。寒天製造の準備は、稲刈りが終わり初霜の降る初冬に始まる。良質な寒天作りに重要な施設が寒天干し場である。干し場には、工場近くの日当たりと風通しのよい水田が選ばれ、そこに寒天棚を設けられる。寒天の乗った寒天棚が広がる、まるで雪が降ったような真っ白な田園風景と、遠くの山々、そしてまるで漁村にいるかのような磯の香り、それに加え昔から試行錯誤の上で伝えられてきた伝統の技があって「山岡の細寒天」は今も受け継がれている。

② 維持向上の経緯と成果

細寒天を特産とする山岡町では、昭和6年に最初の寒天製造の工場ができ、昭和36年には生産工場が120を超えた。昭和50年代から諸外国による生産量が増え、生産量が縮減傾向となった。山岡町でも事業場は年々減少を続け、現在では10事業場となっている。このような状況から平成26年に山岡細寒天の歴史、製造方法を伝えるため寒天資料館を、細寒天料理を提供するレストランを併設し設置した。これにより、平成27年では4,100人だった来館者が平成30年には11,555人（281.8%）となり、多くの来館者に寒天製造に対する情報発信をすることができた。

また山岡町への来訪者、小中学生に山岡細寒天の歴史、製造方法等を伝承するためDVDを作成した。これにより地域の歴史資産の価値を再確認する機会を創出することができた。

山岡町では、現在でも稲刈りが終わった田んぼに棚場を作り、天日により細寒天の製造が続けられ、その風景は、今でも冬の風物詩となっている。



寒天製造の様子



寒天製造の歴史を伝える「山岡駅かてんかん」

③ 自己評価

山岡寒天資料館の整備及び山岡細寒天の歴史、製造方法を伝える普及版、教材版、記録伝承版のDVDを作成し、寒天製造の歴史、製造方法を伝えることにより、理解を深められた。

④ 今後の対応

今後も、山岡町における寒天製造の継承や風致の維持向上が図れるよう山岡駅かてんかんを中心に情報発信を行う。

市町村名	恵那市	評価対象年度	H22～R1年
歴史的風致	5 祭礼の奉納行事に見る歴史的風致	状況の変化	維持
対応する方針	IV 歴史的風致を維持する伝統文化の担い手の育成		

① 歴史的風致の概要

恵那市は、中山間地の農業地帯に立地し、集落は川沿いに展開する中小の盆地や山の斜面の可耕地を単位として集落が構成され、祭礼はこうした集落単位で行われている。獅子舞の奉納行事は、旧岩村藩領の地域に多く分布し、大きな特徴は神楽や悪魔祓いを奉納するほか、余興として歌舞伎の外題を演ずる獅子芝居が金毘羅神社、武並神社、八幡神社、白山咩神社で行われている。このほか真剣を両手にもって神楽を舞う蘇原神社、和紙を漆で固めた木の箱に紙で飾りを張った手製の獅子頭を用いる武並神社の重箱獅子が市指定文化財に指定され、地域に根ざした伝統として現在に伝えられている。

② 維持向上の経緯と成果

獅子舞は岩村町など恵南地域で活発に行われている。地域に密着した民俗芸能であることから、先達となる指導者が、若者に所作や踊りを伝授する。このような経緯で、少しずつではあるが、獅子芝居として脈々と継承されている。



岩村秋祭行事の様子

地歌舞伎は東濃地方で盛んに行われている民俗芸能。飯地町の国登録有形文化財である「五毛座」でも小学生による出演者もあり、地域に根ざしたオールキャストによる演技が行われている。



五毛座で行われた地歌舞伎の様子

中山太鼓は串原地区の県の指定無形民俗文化財である。戦国時代の武田、織田家の争乱時に兵士たちを鼓舞する目的で、勇壮な打ち囃子が生まれたともされる。この囃子を小学生から指導者による指導が行われ、幼い時から立派な打ち囃子ができるようになっている。



中山太鼓の打ち囃子の様子

③ 自己評価

市民が自分たちの民俗芸能を守るという意識があり、真摯に指導や教授を行うことで、特有の文化の継承がはかられている。

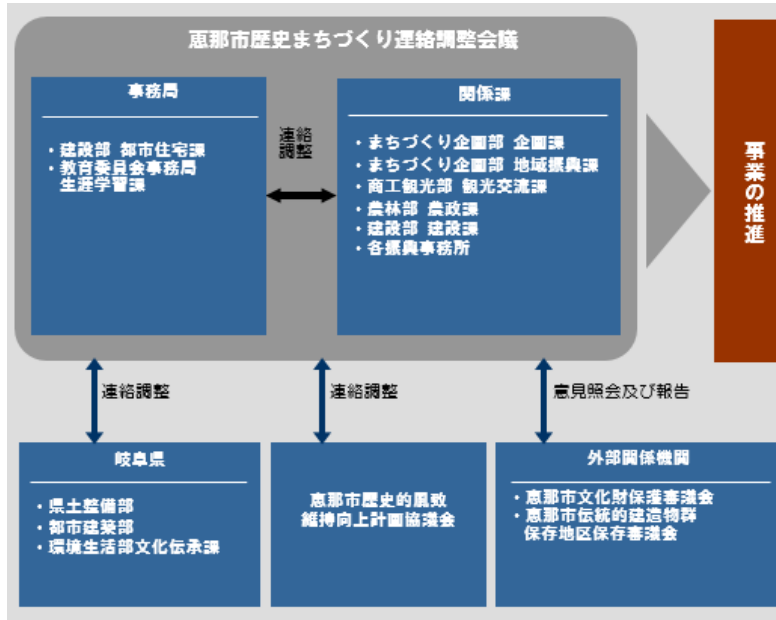
④ 今後の対応

歴史的風致維持向上と地域住民の歴史文化に対する意識の向上を図る。
ふるさと文化普及継承事業を継続して取り組み、伝統文化の継承を図るとともに、文化財保護の普及と啓発を図る。

市町村名	恵那市	評価対象年度	H22～R1年
------	-----	--------	---------

① 庁内組織の体制・変化

歴史まちづくりを推進するため、都市住宅課と生涯学習課を事務局とし、事務局と関係課から構成される「歴史まちづくり連絡調整会議」を随時開催し、関係課間の連絡調整、事業施工に関する調整を図っている。



恵那市歴史的風致維持向上計画協議会の様子



恵那市歴史まちづくり連絡調整会議の様子

② 庁内の意見・評価

(歴史まちづくり連絡調整会議からの意見・評価)

- ・計画に掲載された事業では、複数の課が関連した事業もあるため、連絡調整会議を通じて、事務調整を図ることができ事業が円滑に推進した。
- ・歴史まちづくり事業の推進において、各課が抱える課題を共有することにより、課題解決に向け、各課が横断的な連携が図られ、問題解決が進められた。

(庁内からの意見・評価)

- ・連絡調整会議により、歴史まちづくり事業と他の事業の連携が図られ、事業の相乗効果が出た。

以上のことから、今後も継続して現体制を維持し、関係部局間の連携を図ることにより、事業効果を高め、歴史まちづくりを推進する。

市町村名	恵那市	評価対象年度	H22～R1年
<p>① 住民意見</p> <p>◆ 恵那市市民意識調査の自由意見から</p> <ul style="list-style-type: none"> ・温故知新も大切、時代色も大切。(平成30年度調査 30～49歳 女性) ・まちづくりの明確なビジョンが見えてこない。歴史を上手く活かせていない。(平成30年度調査 70歳以上 女性) ・伝統芸能の伝承に対して支援をして欲しい。地域の宝をみがくための支援。(平成30年度調査 70歳以上 男性) ・中山道の整備、他の宿場より遅れている気がします。中山道のまちづくり、観光、イベント地域の皆様の盛り上がりも有りません。行政ももう一步踏み込んで力を入れて下さい。(平成29年度調査 50～69歳 男性) ・大井宿をもっと歴史を感じさせるストリートにしてほしい。きれいにしてほしい。岩村のような街にしてほしい。(平成28年度調査 50～69歳 男性) ・歴史ある行在所を多くの市民に(また恵那に訪れる方に)広く活用される様にしてほしいです。(平成28年度調査 50～69歳 男性) ・岩村町の岩村城は石垣が素晴らしいのですが、城全体が森となっており、その姿を見ることができません。城内にあるヒノキの伐採によって城下からも石垣が見えれば、兵庫県朝来市の竹田城(年間来城者40万人)の様な観光地になると考えます。(平成28年度調査 30～49歳 男性) ・小・中学生の子供達に日本古来の伝統文化を継承できるようにしてほしい。例えば着物が着られる様に習える事とか、お茶を習うとか。もう一度日本文化の良いところを見なおして継承できるようにしてほしい。(平成26年度調査 60歳代 女性) ・歴史や文化などの古き良きものを後世に残すため、指導者の育成や財源の確保が大切だと思う。(平成26年度調査 60歳代 女性) ・岩村城を再興再建できればますます岩村町が発展して、市としてもますます観光市になる。(平成26年度調査 70歳以上 女性) 			
<p>② 協議会におけるコメント</p> <p>令和元年8月26日に開催した恵那市歴史的風致維持向上計画協議会において、最終評価案を提出し、この10年間の取り組みの総括を議論していただいた。その結果、以下の意見をいただいた。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・この計画に基づき計画的に事業が進められたことにより、町並みが整い、歴史的建造物の修理保全が進み、来訪者も増加している。 ・中山道沿線上では、市民の協力により、歴史資源の環境整備が行われている。しかし高齢化が進み、対応できないところもある。環境整備への対応策を検討する必要がある。 ・岩村歴史資料館では、岩村町の観光入込み客の増加に比べて入場者数が増加していない。企画展を実施するなど、ソフト展開が必要である。 ・計画により施設整備等が進められてきたが、今後は施設の維持管理を計画的に行う必要がある。 ・歴史的風致重点地区だけでなく、培われたノウハウにより、市内の景観も連続性を持たせて向上させる必要があるのではないかと。 ・歴史的風致を活かし、町が活性化することにより、若者の定住、雇用に結びつける施策を展開できると良い。 ・岩村の景観整備が進み、住みたい人も増えている。これを活性化に繋げることが重要である。 ・時間の経過により、町並みも変化する。町のシンボルとして変わらないものを重点的にアピールしたい。 ・防火対策を継続して進める必要がある。 			

市町村名	恵那市	評価対象年度	H22～R1年
<p>① 全体の課題</p> <p>1. 歴史資源の魅力の向上及び活用促進に関すること 岐阜県指定の史跡岩村城跡の石垣は、これまでの調査により、石垣天端や角石がずれていたり、樹木の根や盛土造成、排水不良などによる崩れ、孕みなどが見られるなど崩落時には被害が甚大になるおそれが考えられ、早急かつ慎重に対策を講じる必要がある。 また中山道宿場町大井地区では、平成28年まで地域の有志による歴史文化の活動の拠点としていた明治天皇大井行在所が閉鎖されている。その施設を中心に地域の歴史文化の活動を進める必要がある。</p> <p>2. 町並みの整備と保全に関すること 重要伝統的建造物群保存地区である、岩村町本町通りでは、少子高齢化に伴う後継者不足や空き家化などによる良好な景観を形成する周辺環境への管理不足が懸念され、特に空き家対策を講じる必要がある。</p> <p>3. 伝統文化の担い手の育成に関すること 少子高齢化などにより、伝統文化の担い手不足が進んでおり、伝統文化の継承が課題となっている。伝統文化の継承のため、継承に必要な経費負担が課題となっている。</p>			
<p>② 今後の対応</p> <p>第一期計画での課題を踏まえ、第二期計画を策定し、下記の方針に基づき、引き続き歴史的風致の維持向上に取り組む。</p> <p>1. 歴史資源の魅力の向上及び活用促進に関すること 地域の歴史的風致を形成する建造物や歴史資源等の適切な保全及び活用を引き続き取り組む。 地域の歴史資源の認識や来訪者へ案内を行うため、案内看板を設置し、内外へ情報発信を進める。 観光客が休憩しながら、恵那市の歴史に触れることのできる環境を整備する。</p> <p>2. 町並みの整備と保全に関すること 伝統的建造物保存地区である岩村町本通りでは、歴史的町並みを保全するため、引き続きまちなみ保存事業を実施するとともに、少子高齢化に伴う後継者不足、空き家等の対策について、市民とともに対応を進める。 中山道宿場町大井地区では、道路修景を引き続き実施し、歴史的な町並みの景観の向上を図るとともに、地区内の歴史的建造物の保存活用を図る。</p> <p>3. 伝統文化の担い手の育成に関すること 伝統文化の担い手育成のため、地域住民や学校などとともにイベントや講習会を実施し、後継者育成を進めるとともに、伝統文化で使用する祭礼衣装や楽器の整備・修理に財政支援を行う。</p>			